

2014年度 学校評価の報告

2014年度に実施しました「学校評価」について、その内容と集計結果、及び分析を報告いたします。本校の「学校評価」とは、Ⅰ.自己点検（教員による自己評価）、Ⅱ.生徒による自己学習評価と授業評価、Ⅲ.保護者など学校関係者による評価（学院評議員会のほか、学年保護者会、奉獻会理事・教職員懇談会、地域別懇談会、奉獻会常任理事会等がそれにあたる）になります。Ⅲについては、昨年12月22日発行の「奉獻会理事・教職員懇談会報告」や賢明タイムス等で一部ですがお知らせしていますので、ここではⅠ・Ⅱの各集計結果と、その結果に対して2月の常任理事会で出されたご意見も加味した分析をお知らせいたします。

教員による自己点検 [2014年12月実施]

1. 集計結果

- * この自己点検は、常勤教員が日々の学習指導、生徒指導、特別活動、校務運営などを振り返り、教員としての能力向上に役立てることを目的に行っています。その点検項目と集計結果の全体平均値を過去2年分と比較して報告します。
- * 評価は、5（よくできている）・4（できている）・3（ふつう）・2（あまりできていない）・1（できていない）の5段階です。

×印のついている項目番号は非常勤教員は回答していない

大項目	行動項目	項目番号	行動確認項目	全体平均値		
				2012	2013	2014
A	学校の教育方針・指導計画を把握し、キリスト教的価値観のもとに指導を行っている。	1	学校および各学年の年間目標の達成に向けて、具体的な取り組み計画を作成し、実践している。	3.14	3.34	3.25
		2	生徒を公平に扱い、全員に声をかけるように努め、叱るだけでなく、ほめることによって生徒を育てている。	4.07	4.03	3.96
		3	朝礼・終礼および授業前後などにおいて、率先してお祈りを唱え、聖歌を歌っている。	4.23	4.16	4.25
		4	宗教行事の意味や創立者の精神を自ら学び、生徒に伝えようとしている。	3.48	3.44	3.59
B	人権に配慮した言動をとっている。	5	生徒の個人情報（成績・住所録など）の取り扱いに十分配慮している。	4.27	4.23	4.23
		6	生徒の指導にあたっては、周囲に十分配慮した環境で行っている。（職員室、教室、校外などにおいて）	3.84	3.94	4.04
		7	生徒・保護者・教職員に対して、その人権に十分配慮した言動をとっている。	3.99	3.99	4.01
C	学習指導計画を作成し、適切に実施している。	8	学期ごとの指導計画を作成し、生徒に提示し、また点検している。	3.63	3.61	3.54
		9	単元ごとの学習の目標や取り組み方、到達度をはかる方法を生徒に示している。	3.57	3.57	3.50
		10	当日の授業で取り組み内容や活動を説明している。	3.99	4.01	4.07
D	授業時間を有効に活用し、理解しやすい授業を行っている。	11	読みやすく、わかりやすい板書をしている。（文字の大きさ、まとめ方、誤字がないなど）	3.62	3.59	3.58
		12	わかりやすい話し方を心がけている。（声の大きさ、話す速さ、学年に応じた用語の使用など）	3.90	3.88	3.84
		13	重点項目を強調し、授業のポイントをまとめている。	3.86	3.87	3.91
E	学習への意欲を喚起し、生徒の能力に応じた指導を行っている。	14	小テストの実施や課題の提示など、学習目標をもたせる指導をしている。	3.75	3.58	3.70
		15	発問・作業・テストなどの生徒の反応、理解度を確認しながら、授業の内容を工夫している。	3.72	3.67	3.54
		16	個々の生徒の学力・能力に応じた教材・課題を与え、チェックしている。	3.17	3.09	3.29
F	授業中の生徒の態度に対して、適切な指導を行っている。	17	授業前後のお祈りは、静かな雰囲気の中で、しっかり唱えさせている。	4.15	4.06	4.07
		18	全員に関かせるべき内容を話すとき、作業を中断させ注目させている。	4.07	3.90	3.96
		19	私語や居眠りなどをしている生徒を指導できている。	3.77	3.66	3.74
G	適切な評価を行い、指導の結果について検証・改善に努めている。	20	客観的かつ公正な評価基準を設定し、生徒に説明している。	3.86	3.74	3.90
		21	テスト実施後の結果に基づいた指導（問題解説・必要に応じて下位層への復習等）をしている。	3.59	3.50	3.54
H	学校生活における基本的な生活習慣、マナーを身につけさせる指導を行っている。	22	教師自ら挨拶・丁寧な言葉遣い・時間厳守・静粛・掃除などを実践している。	3.91	3.94	3.91
		×23	集団行動において適切な指示や指導ができている。	3.47	3.56	3.47
		×24	現場での掃除監督、教室・廊下での生徒指導・マナー指導ができている。	3.53	3.65	3.59
I	学年内のコミュニケーションをはかり、教師団が一致して諸問題の解決に取り組めるよう努めている。	25	教科の取り組みや生徒指導上の問題について、他の教師と情報交換し、個人の理解・指導に役立っている。	3.74	3.60	3.39
		×26	教師団で統一した指導を継続して行っている。	3.48	3.43	3.18
		×27	学校・学年行事にあたっては、進んで役割を果たしている。	3.57	3.49	3.49

大項目	行動項目	項目番号	行動確認項目	全体平均値		
				2012	2013	2014
J	家庭との連絡を密にし、生徒の指導に生かしている。	×28	欠席確認をはじめ、健康面・生活面・学習面などの必要な連絡は、時機を逸することなく行っている。	3.67	3.59	3.56
		×29	保護者に学年やクラブの行事・活動の案内、計画等のプリントを出している。また、年間活動報告を行っている。	3.16	3.16	3.16
		×30	休みが多いなど問題点のある生徒の保護者に連絡をとっている。また、家庭訪問を行っている。	3.42	3.29	3.34
K	クラブ活動、委員会活動に積極的に関わり、生徒の状況を把握している。	×31	活動計画を立て、実践した内容を記録に残し、次年度に生かしている。	2.84	3.24	3.08
		×32	後片付けや整理整頓の指導を行い、確認している。	3.34	3.53	3.55
		×33	動向を意識した助言・指導を行い、生徒を育て、活動の活性化に努めている。	3.34	3.29	3.39
L	校務遂行に当たっては、仕事を計画的に、適切に実施し、報告・連絡を密に行っている。	×34	係の仕事を行うにあたり、他の教職員の協力を得て進めた。	3.30	3.57	3.49
		×35	他の人にも仕事の内容がわかるよう記録をとり、マニュアルを作っている。	2.79	2.82	2.71
		×36	諸表簿の整理・点検を確実にし、正確に記録している。	3.06	3.20	3.18
M	いつも施設・設備の整備保全や非常時の対応に留意している。	37	火災、不審者の侵入、生徒の急病・ケガなどの非常時を含め、いつも生徒の健康や安全に配慮した行動ができる。	3.38	3.58	3.40
		×38	放課後などに、教室等管理担当区域を見回り、整理整頓、戸締り、清掃に配慮し、安全点検を心掛けている。	3.38	3.50	3.33
		×39	職員室など、身の回りの整理整頓に心がけ、鍵の管理も確実にできている。	3.46	3.33	3.33
N	必要な事項について研修し、その結果を生かしている。	40	教師として求められる探求心、事務能力を高め、自分を見直し改善しようと努めている。	3.72	3.64	3.62
		×41	夏休みなど、長期にわたり授業がない期間（長期休業中）には計画表等を作成し、自己研修に努めている。	3.02	2.88	2.88
		×42	研修した内容について、関係する会議などで、必要な報告を行い、他の教員と共有するように努めている。	2.77	2.76	2.71
O	改善行動の程度	43	昨年度の自己点検や授業評価の結果を踏まえて、弱点を改善する努力をしている。	3.27	3.23	3.24
		×44	理事教職員懇談会、地域別懇談会、個別懇談会等に出された保護者の意見や要望を生かす努力をしている。	3.28	3.27	3.20
		×45	学校の全体状況を認識し、「学校経営者」の視点でその改善や必要な言動に努めている。	2.81	2.88	2.77
P	生徒募集〔入口〕と進路指導〔出口〕と地域との関わり	×46	「学校案内」「募集要項」の内容や本校の生徒募集活動を理解し、自らできる広報活動を行っている。	2.96	2.96	2.84
		×47	対外的な特別活動や地域の教育資源の開発の際には、本校を取り巻く地域社会との関わりを意識している。	3.02	2.90	2.88
		48	生徒理解に必要な個人的資料や進路情報を収集・活用し、生徒の能力・適正等を発見するための工夫をしている。	3.15	3.25	3.21
Q	生徒指導と特別支援教育の個人情報（教育相談）	×49	「いいとこみつけ」や「生徒指導情報」の書き込みや、関係学年・関係部署での情報共有を心がけている。	3.15	2.84	2.73
		×50	特別支援が必要な生徒を把握し、個別の指導計画や教育支援計画を理解し、チームとしてその教育にあたっている。	3.13	3.10	3.04
R	いじめの問題に関する生徒の実態把握並びに取り組み状況	U	日頃からいじめの実態把握に努め、生徒が発する危険信号を見逃さないようにしていじめの早期発見に努めている。	3.53	3.57	3.50
		V	問題があった場合にはその状況を学級にとどめず、学年や学校組織として共有している。	3.79	3.93	3.74
		×W	学校の方針や取り組みを理解し、問題があった場合には状況を保護者と共有し、理解や協力を得ようとしている。	3.57	3.68	3.69

2. 集計結果の分析

今年度は、全体平均が3.47で昨年より0.3下降した。高評価（3.37以上）の12項目はA(2,3)・B(5,6,7)・D(12,13)・F(17,18)に多く、低評価の項目（3.25未満）の15項目はL(35,36)・N(41,42)・O(44,45)・P(46,47,48)・Q(49,50)に多い。

また、昨年度と比較して、上昇項目は18項目、内0.1以上の上昇が6項目（特にE-16）で、下降項目は30項目、内0.1以上の下降が9項目（特にI-25/26）であった。しかし、全般的には大きな変動は見られなかった。

また、例年通り、全般的に非常勤教員の自己評価値が高かった。

高評価の項目は、授業や学習指導に関わるところで、一方、低評価の項目は教師団の連携、学習指導以外の校務、また学校全体として取り組むべき事項等の計画性・継続性に関するところに見られた。

今年度は高校コース制も2年まで進行し、さらに授業が細分化してきたが、「Ⅱ 生徒による授業評価」からも見られるように、教員にとって多くのエネルギーが学習指導を主とする指導に費やされており、それについての成果は上がっていると思われる。また、各教員が『一人ひとりを大切に』という土台があるので、今後の課題としては、個々の指導をさらに効率的に発展させ、有機的に結び、連携を強化していきたい。また、校外に発信していく部分も不十分なので、広報を中心として取り組んでいきたい。学校関係者からの意見として、「教員による自己点検」「生徒による自己学習評価・授業評価」ともに段階（5段階評価）の問題点（評価3に集中する傾向があるなど）や項目内容のより具体性のあるものへの変更・精選について指摘を受けた。また、教員の取り組みとして、低評価の項目を中心に、今年度実施のスマホ・ケータイ使用ガイドラインの確立のように、学校全体で具体的、重点的に取り組む事柄の目標を定めるべきとの意見を得た。次年度に活かしていきたい。

生徒による自己学習評価・授業評価

[2014年7月実施]

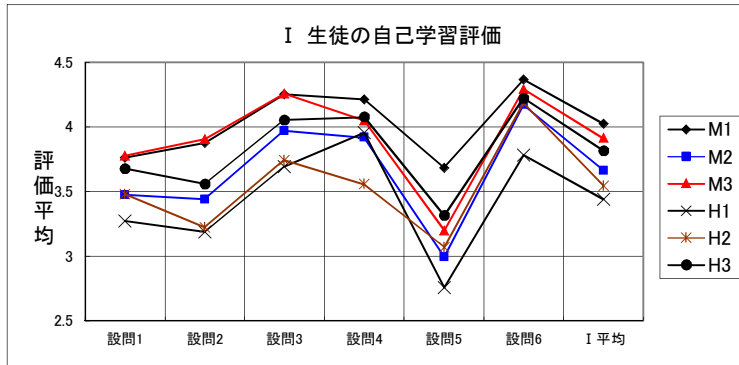
1. 集計結果

- * この「生徒による自己学習評価および授業評価」は、①生徒がより主体的に、より意欲的に学習活動を行うこと、②教員が授業改善のための課題を発見し学習指導技術を向上させること、を目的として実施しています。今年度も常勤教員が所属学年の担当授業1つについて2学期以降の改善行動についてゆくために7月に実施しました。その評価項目と集計結果の学年別全体平均値を過去2年分と比較し報告します。
- * 評価は、5（あてはまる）・4・3・2・1（あてはまらない）の5段階です。

《 I 生徒の自己学習評価 》

設問	評価項目	中学	全体平均値			高校	全体平均値		
			2012	2013	2014		2012	2013	2014
1	この教科に興味を持っている。	M1	3.79	3.65	3.76	H1	3.44	3.36	3.27
		M2	3.52	3.60	3.47	H2	3.50	3.46	3.48
		M3	3.59	3.31	3.78	H3	3.62	3.46	3.68
2	授業内容を理解できている。	M1	3.69	3.69	3.88	H1	3.50	3.10	3.19
		M2	3.56	3.65	3.44	H2	3.32	3.42	3.22
		M3	3.56	3.39	3.91	H3	3.31	3.67	3.56
3	授業中は集中して、内容を理解しようと努めている。	M1	4.22	4.30	4.25	H1	4.01	3.64	3.69
		M2	3.90	4.07	3.97	H2	3.79	3.95	3.74
		M3	3.92	3.63	4.26	H3	3.80	3.96	4.05
4	課題に対してまじめに取り組み、提出期限を守っている。	M1	3.97	4.16	4.22	H1	4.04	3.50	3.96
		M2	3.91	3.93	3.92	H2	3.80	4.15	3.56
		M3	3.68	3.91	4.05	H3	3.40	4.04	4.08
5	授業の予習・復習をし、学習内容を発展させるように努力している。	M1	3.34	3.37	3.68	H1	2.89	2.93	2.76
		M2	2.96	3.05	2.99	H2	3.14	3.04	3.07
		M3	3.01	2.75	3.20	H3	3.11	3.24	3.31
6	この科目について2学期以降はもっと意欲を持って取り組みたい。	M1	4.44	4.42	4.37	H1	4.05	3.89	3.78
		M2	3.96	4.23	4.17	H2	4.12	4.10	4.19
		M3	4.03	3.76	4.29	H3	4.02	3.94	4.22
	平均	3.72	3.71	3.87		3.60	3.60	3.60	
	全体延人数	2,481	2,528	2,705		2,576	2,712	2,561	

★ 2014年度、生徒の自己学習評価の結果グラフ

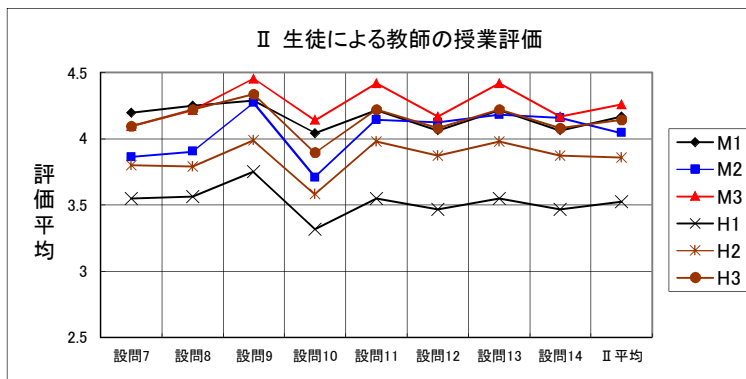


※ 習熟度別授業の評価

M2とM3の2学年平均	
数学「標準」	3.46
数学「発展」	3.86
英語「標準」	3.85
英語「発展」	4.30
H1とH2の2学年平均	
英語ソフィア	3.92
英語「標準」	3.38
英語「発展」	3.85

* 数学はH1のみ習熟度別のため記載せず

★ 2014年度、生徒による授業評価の結果グラフ



※ 習熟度別授業の評価

M2とM3の2学年平均	
数学「標準」	3.56
数学「発展」	3.63
英語「標準」	4.29
英語「発展」	4.42
H1とH2の2学年平均	
英語ソフィア	4.20
英語「標準」	3.80
英語「発展」	4.00

* 数学はH1のみ習熟度別のため記載せず

《Ⅱ 生徒による授業評価》

設問	評価項目	中学	全体平均値			高校	全体平均値		
			2012	2013	2014		2012	2013	2014
7	黒板の字の大きさ、まとめ方は見やすく、わかりやすい。 <黒板を利用しない授業の場合は記入しない>	M1	4.11	3.85	4.20	H1	3.80	3.57	3.55
		M2	3.78	3.97	3.86	H2	3.62	3.75	3.80
		M3	4.11	3.61	4.09	H3	3.58	3.73	4.09
8	話し方、説明は大事なところを強調するなど、わかりやすい。	M1	4.03	3.90	4.25	H1	3.88	3.54	3.56
		M2	3.88	3.93	3.90	H2	3.80	3.90	3.79
		M3	4.04	3.67	4.22	H3	3.79	3.92	4.22
9	プリントや使用する教材が適切に使われ、授業の理解に役立っている。	M1	4.24	4.19	4.29	H1	4.08	3.76	3.75
		M2	3.98	4.28	4.27	H2	4.03	4.18	3.99
		M3	4.15	3.76	4.45	H3	4.05	4.14	4.34
10	生徒の理解の程度を確認しながら授業を進め、進む速さが適切である。	M1	3.84	3.69	4.04	H1	3.72	3.35	3.32
		M2	3.69	3.90	3.71	H2	3.57	3.72	3.58
		M3	3.84	3.51	4.14	H3	3.40	3.80	3.89
11	授業において生徒参加(活動・発表・質問)の機会が考えられている。	M1	4.01	4.01	4.21	H1	3.97	3.65	3.55
		M2	4.02	3.97	4.14	H2	3.88	3.84	3.98
		M3	3.90	3.66	4.42	H3	4.11	3.95	4.22
12	授業中、学習にふさわしくない態度をとった場合には適切な指導がなされている。	M1	3.93	4.13	4.06	H1	3.94	3.62	3.47
		M2	3.85	3.95	4.13	H2	3.57	3.91	3.87
		M3	4.01	3.54	4.17	H3	3.67	3.87	4.08
13	授業内容の定着に役立つ情報や課題(宿題、予習・復習の指示、小テストの実施、発展的な内容の例示など)が示される。	M1	4.01	4.01	4.21	H1	3.97	3.65	3.55
		M2	4.02	3.97	4.18	H2	3.88	3.84	3.98
		M3	3.90	3.66	4.42	H3	4.11	3.95	4.22
14	この授業から先生の熱意が伝わってくる。	M1	3.93	4.13	4.06	H1	3.94	3.62	3.47
		M2	3.85	3.95	4.16	H2	3.57	3.91	3.87
		M3	4.01	3.54	4.17	H3	3.67	3.87	4.08
	平均		3.96	3.87	4.16		3.82	3.79	3.84
	全体延人数		2,481	2,528	2,705		2,576	2,712	2,561

2. 集計結果の分析

- (1) 昨年度と比較すると、「生徒の自己学習評価」「生徒による授業評価」ともそれぞれ0.08、0.17上がった。これらの要因としては、高校コース制が2年目を迎えたこと、また、習熟度別授業が、数学についてはM2からH1ルミエールまで、英語についてはM2からH3までの実施が定着してきたことなどの仕組みが効果的に行われてきたと思われる。生活状況では、今年の「スマホ・ケータイの使用ガイドライン」を設定し、保護者と連携して取り組んできたが、生活習慣の改善も一因にあると考えられる。
- (2) 学年別にみると、「生徒の自己学習評価」「生徒による授業評価」ともM1とH3が高く、中間学年が低い傾向にある。M1は基本的な事項からの出発なので理解度が高く、H3は受験を控えた学習に十分に取り組んでいることが要因と思われる。また、近年はM3で高い数値が出て、H1で下降する傾向もあるので、中学から高校へ向けて、『自主的な学習』への移行を教員も意識していきたいと考えている。
- (3) 数学・英語の習熟度別授業については、例年のように、各学年毎では個人評価になるため、2学年の平均で示した。また、高校については数学の習熟度別授業がH1だけになるので、英語について「標準(ルミエール)」、「発展(ルミエール)」、ソフィア別に示した(左記※)。評価としては(ソフィア)、「発展」「標準」の順であったが、ソフィアとルミエール発展の数値は近い。
- (3) 「生徒の自己学習評価」について、評価の高いものは(設問3)と(設問4)の授業時の取り組みや課題提出の項目で、一方、評価の低いものは(設問2)(設問5)で、予習・復習や授業内容の理解の項目であった。但し、(設問5)については依然評価は低いが、この数値は予習・復習がなじまない教科も含まれている。

「生徒による授業評価」について、評価の高いものは(設問9)(設問11)(設問13)の授業時の教材の使用、課題、授業時の生徒参加の項目であった。評価の低いものは(設問10)で生徒の理解度の把握・授業進度の項目であった。ソフィアとルミエールや発展・標準クラスの各項目の数値で差が大きいものは、(設問2)(設問4)(設問5)で、授業の内容理解や課題提出等の項目であった。
- (4) まとめとして、生徒は授業に真面目に取り組んでおり、教員は教材を工夫している現状があるが、まだ十分にそれが効果を出せていないところがあるので、予習→授業→復習の流れをしっかりと確立させていくことが今後の課題と考えている。そのために、課題の精査、通常の補習や長期休暇中の補習などの内容など検討・改善や次年度の週完全6日制実施における増単位分の活用を含め、シラバスを再構築していく。

* なお、以上の『学校評価の報告』は本校ホームページのトップページから → 学院案内 → 学校評価 → 2014年度学校評価でご覧になることもできます。過去3年分を公開しています。